

# 会 議 録

会議名	第2回 みよし市町誌編さん委員会			記載者	久野 宗秀・伊藤 大輔
期 日	平成 25 年 10 月 29 日 (火)			場 所	市役所 202 会議室
	午後 2 時～ 3 時 35 分				
出席者	市長	久野 知英		事務局	部 長 塚本 直樹
	編さん委員	小野田英久	石川 芳秋		次 長 近藤 政彦
		近藤 隆治	木戸 友二		専門監 酒井 峰孝
		林 董一	黒田 安雄		課 長 久野 宗秀
					専門員 伊藤 大輔
	欠 席	深谷 みほ	水野 裕之		
内 容					

## 1 あいさつ

【事務局】ただいまから平成 25 年度第 2 回みよし市町誌編さん委員会を始めさせていただきます。最初に市長からごあいさつをいただきたいと思ひます。

【市長】最初のあいさつという事でご指名をいただいたわけですが、編さん委員の皆様方には長い期間にわたりありがとうございます。市制推進にも数々のご支援・ご協力をいただきました事に対しても心から感謝申し上げます。みよしの図書館が大変古くなり手狭になってきました。現在のみよしの人口は 6 万ですが、当初は 2 万人ぐらゐを想定した図書館であったようでございます。図書館が一番面積をとる、公民館、ふれあい交流館、青少年ホーム、学習交流センター、これらの機能をひとつにまとめた複合施設という事で 25 年度は実施設計に着手し、26 年度早々に建設にかかるといふ手筈になっております。私自身 12 月 7 日が任期ですが、マニフェストに掲げた複合施設というのは実は構想までという事でした。かなり進んで実施設計まで出来て大変よかったと思ひております。28 年度の開館を目指してあります。さて、町誌編さん事業には非常に長い年月をかけて前編さん委員会会長石川恒夫様、現会長の小野田英久様、編集委員会会長の黒田安雄様、そして監修者の林董一様はじめ関係者の皆様のお力添えで進められこの度最終巻となる本文編が完成いたしました。9 月 28 日には、盛大に新編三好町誌完成記念式典ならびに講演会を開催する事ができました。黒田先生にはご講演いただき大変ありがとうございます。編集委員の各部会長様はじめ委員の皆様には大変熱心に資料の現地調査や執筆をいただきました事に対しても心から感謝を申し上げる次第でございます。話が出たのは平成 11 年で、それからいろいろな紆余曲折がありまして事業そのものには 15 年度から本格的に取りかかったという事でございます。19 年に別編、22 年に資料編を発売、この度最終巻となる本文編を発売し、長期にわたりました新編三好町誌の編さん事業を完了する事になったわけでございます。この編さん事業が完成する事によりまして、収集・整理した多くの資料は市民の皆様の共有の財産となってみよしの歴史や文化を次の世代へつなげていく事ができるわけでありまして、私も感慨無量でありますし、素晴らしい三好町誌を作っていただいたとの思いでいっぱいです。今日はこれまでの町誌編さん事業の実施状況とか収支決算報告書などをご審議いただくという事でございますが、よろしくお願ひ申しあげましてご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございます。

いました。

【事務局】ありがとうございました。次に小野田会長にご挨拶をいただきたいと思います。

【会長】ご無礼いたします。今日は第2回目の編さん委員会でございますが、併せて編さん委員会としてのまとめの会でもあります。先の9月28日の完成記念式典では皆様のお力をいただきまして、滞りなく出来たと私も自画自賛しております。とりわけ久野市長には編さんの段階からずっとご尽力、ご理解をいただきまして、最後の完成式でも陣頭で推進いただきましたし、今日のこの会議でも皆様に格別のお礼を申し上げたいという事でご出席いただきました。あらためて久野市長には町誌編さん事業に対しお世話になり、久野市長の代で完成できた事は、大変喜ばしい事でございます。今日は事務局からまとめの報告もございますが、それが終わりましたら最後の機会でございますので、ご参会いただいている委員の皆様、事務局の皆様にも今までの苦労話、感想、これからの町誌の考え方等何でも結構でございますので、全員の方にスピーチをお願いしたいと思います。町誌に関する事で私から報告したいと思います。1つ目は教育長が諸事情で10月17日をもって辞任しました。地方新聞によりますと9月28日の完成記念式典に非常に感銘を受け、現在のみよしがあるのは先人のリーダーシップのおかげであるという事を講演会等を通して改めて強く感じたという事でございます。2つ目は、講演会では黒田先生にも大変ご厄介になり、素晴らしい講演をいただきました。2人目に講演していただきました現代部会の伊豆原先生の講演について「みよしの方にもう一度聞いてもらったほうがいいのではないか」という声を2、3聞きました。私もその通りだと思い、市の老人クラブの役員会等にも諮りましたらぜひもう一度老人クラブの会員に聞いてもらう事が決まりました。伊豆原先生にお願いしましたところ、快く引き受けてくださいます。来年度の2月4日に福祉センターでお話を伺うという事になりました。演題は先生のご希望で「子孫に伝える『新編三好町誌』」でございます。「戦後みよしがどう歩んできたのか、それをどうやって次の世代に伝えていくか」という事を熱く語っていただけると期待しております。3つ目は、私にきた手紙のコピーで恐縮ですが、久保正明さんからいただいたものです。8年間にわたり町誌編さんの事務整理、資料収集等を裏方でやっていただいておりますが、今年4月から豊田市の市史編さんに携わってみえる方でございます。前半には完成記念式典までの事が書いてありますし、後半にはこれからのに関する若干の彼の考え方も載っております。皆さんにこういう考え方もあるんだという事を見ていただこうと思ってコピーをさせていただきますのでご覧いただきたいと思います。以上、町誌に関する報告を含めまして私からの最初の挨拶とさせていただきます。今日はお忙しい中、それぞれの事情もあったと思いますが枉げてご出席いただきました事、あらためてお礼申し上げます。ありがとうございました。

【事務局】ありがとうございました。市長は次の公務がございますので、ここで退席をさせていただきます。それでは議題に入っていきたいと思います。ここからの進行は小野田会長をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

【会長】お手元の資料に基づきまして進めてまいります。議題1について事務局より説明をお願いします。

## 2 議題

(1) 平成25年度町誌編さん事業実施状況及び編集委員会収支決算報告について

【事務局】(事業実施状況及び収支決算について報告)

【会長】ご苦労様でした。皆様のご質問、ご意見を頂戴したいと思います。

【事務局】監査につきましては、すでに中世部会の青山先生に見ていただいております。原田先生にも調整した上で監査を受ける予定をしております。

【会長】それでは議題1について、採決に入りたいと思います。賛成の委員の皆さまの挙手をお願いします。

(全員挙手)

【会長】ありがとうございました。全員挙手でございますので、原案通り承認されました。次に議題2について事務局から説明をお願いします。

(2) 町誌編さん事業完了報告について

【事務局】(町誌編さん事業完了報告について説明)

【会長】ご苦労様でした。ご質問、ご意見はございますか。恐縮ですが、私からひとつ。今回出ました『新編三好町誌』本文編の印刷はこの表ではどこにあたりますか。

【事務局】中ほどに町誌印刷製本費というのがございまして、いちばん右に601万1,000円というのがございます。こちらが印刷の費用でございます。24年度に37万3,000円という金額が書いてありますけど、本文編には地図が4枚入っております、そのうちの2枚は著作権の関係で別の印刷会社で事前に作った上で合わせて4枚にしております。地図代が37万3,000円です。それが24年度に入っております。本文編は601万1,000円と、37万3,000円を合わせた額が本文編の印刷費です。

【会長】トータル何冊で出したんですか。

【事務局】本文編は2,000冊です。

【会長】そうすると1冊いくらぐらいになりますか。

【事務局】3,000円ぐらいになります。実際は契約金額というよりも設計額で見っております。設計額で見た約半分の費用です。

【会長】あれだけ立派なものでも印刷費は安いんですね。

【事務局】業者を何社か入れておりますけど、一番高いところと安いところではかなり開きがあります。

【会長】それでは議題2につきましての質疑をこれで終わりたいと思います。採決に入ります。原案に賛成の皆さまの挙手をお願いします。

(全員挙手)

【会長】ありがとうございました。議題2につきましても事務局の報告通り全員の賛成で可決されました。次に議題3について事務局より説明をお願いします。

(3) 『新編三好町誌』完成記念事業の報告について

【事務局】(『新編三好町誌』完成記念事業の報告について説明)

【会長】完成記念事業の報告について、また当日の感想など皆さん何かございますか。

【事務局】当日に撮らせていただいた記念写真をご出席の顕彰者の方へお配りしております。他の委員の方にも今週中にはお送りする予定です。

【会長】顕彰を受けた方から写真を感謝状の額の隅に入れて額を飾っておきたいというお話

も聞いておりますのでよろしくお願ひします。

【事務局】感謝状は欠席の方も含めまして全員の方にお送りしております。

【会長】31名のうち何名欠席でしたか。

【事務局】半分ぐらい欠席だったと思います。

【会長】議題3は報告ということですので、これで終わりにしたいと思います。次にその他の配布先について説明してください。

### 3 その他

『新編三好町誌』本文編 無償頒布（寄贈）先一覧について

【事務局】（無償頒布（寄贈）先一覧について説明）

【会長】ご苦労様でした。国会図書館へは送っていますか。

【事務局】県外の図書館の欄の34部のなかに含まれております。2部送っております。

【会長】あそこへは送っておいたほうが良いという指導があったような気がします。

【事務局】国会図書館へは販売したら2部献本という形で必ず送ることになっていますので毎回送っています。

【会長】まだ1,000部残っているという事ですか。

【事務局】2,000冊のうち半分を関係者にお配りし、一般販売で売れた分も含めましてあと1,000冊ほど残っています。

【会長】私も関係の人に配りたいなと思って6冊買って自慢したら、他に9冊とか16冊買ったという方がいてびっくりしました。この事も含めまして総括的に何かございますか。

【委員】寄贈先は分かるんですが、どれだけ売れたかというほうがむしろ心配で、別編や資料編も含めてどれだけ売れて、残部はどれだけかという事も是非教えていただきたい。

【事務局】本文編につきましては、8月から10月までで65冊売れております。寄贈分が918冊で残りが1,017冊です。資料編は今年4冊売れまして、発刊した1,500冊のうち現在の在庫は510冊です。別編は今年に入って3冊売れておりまして、2,000冊発刊したうち現在の在庫は749冊です。

【会長】資料編の時まではPRのリーフレットを作っていましたが、本文編での作成は。

【事務局】今回は発刊記念事業という事でそのチラシのなかに入れました。みよしのなかでは広報で紹介しております。愛知県史研究のなかにも載せますので研究者の方などはご覧になるとと思います。

【会長】皆さんに一生懸命作っていただきましたので、在庫があまり残らないようにしていただきたいと思います。これで本日予定していた議題はすべて終了とさせていただきます。最初にお約束したとおり皆さんに完成までの苦労話とか町誌全般について何でも結構ですのでご意見、ご感想をいただきたいと思います。最後は黒田先生、林先生にしめていただきたいと思っています。最初に石川先生からお願いいたします。

【委員】私が編さん委員に任命されたのは計画の途中でした。編さん委員という重要なお仕事をいただいても毎回建設的な意見も申し上げる事もなく終わってしまっていて申し訳ありません。今後願う事はひとりでも多くの市民の皆さんにこの町誌に目を通していただきたいという事です。そのためには、PRのほうも手を抜かずには是非お願いしたいと思います。個人的な事ですけど平成18年12月25日。これは私にとって忘れる事の出来ない日です。夕方に当

時の編さん委員会会長の石川恒夫さんから電話がありまして、明くる日に当時の編集委員会会長の原田先生と関係者の方が家にみえまして、「石川恒夫会長の承諾も得てきたんですが、原稿を書いてほしい」と言われました。当時も文化財保護委員をしておりましてので、推移は知っておりました。別編の原稿の締め切りが平成18年8月、平成19年3月発行という段取りが頭のなかにあっただのでいくら何でも難しいのではないかと思いますけど、結局頭を下げられて、当時担当しておられた方に資料を提供するという形で書きましようという事になりました。発刊の3月に向けて1、2月は正直徹夜も何回かしました。幸い資料は立場上持っておりましたが、神社・仏閣など実際に目で確かめたいと思って回りました。一緒に行った久保さんも本当によくやってくれました。別編が発刊された時にはホッとしたと同時にもう少し時間があれば、もうちょっと突っ込んで書く事が出来たのではないかという悔いが残りました。今日たまたま久保さんの名前が出てきて大変懐かしいと思いました。

【会長】ありがとうございます。実際に体験された大変貴重な苦労話でした。それでは文化協会長さんお願いします。

【委員】完了までの長い月日のなかで、私は平成21年ぐらいから宛て職でご厄介になり、5年ぐらいになるかなと思うんですが、辞令をもらったのが別編が発刊されたぐらいでした。私は石川先生のように自分が執筆したというような事はありませんが、大勢の方がいろいろな分野をやってみえた事は理解しておりました。顕彰を受けた方30数名がここまでやって来られてこれ程立派なものが出来たと思っています。同じ筋生に住んでおられる伊豆原充先生は、ずっと名古屋のほうで先生をやっていたら三河のほうには一度も見えなかったんですが、講演を聞いて非常にみよしの事について我々よりも勉強なさっているなと感じました。老人会でも講演をされるようですが、ああいう話であれば地元の方は聞くべきだなと感じました。実際に私は編さんの事については携わっておりませんが、長い年月をかけてこれだけのものを何冊か作って来られた事を感じております。

【会長】ありがとうございます。教育委員の木戸さんお願いします。

【委員】私は教育委員会の宛て職で知識がないままに編さん委員会に参加させていただきましたけど、私の職業上からすると戦前・戦後は人々のくらしのなかで協同組合の力が大きかったという事で、特にみよし病院、かつての三好村診療所、あるいは豊田市の旧加茂病院やこの地域からも患者が行っておられた安城の厚生病院といったところが戦前・戦後に医療の面で私たちに非常に親しみのあるものだったのかなど。今では医療は誰もがどこへでも自由に受けられる時代ですが、当時結核だとか抗生物質のない時代を乗り越えて今があるわけですので、ぜひ次の町誌（市史）の現代編で人々の暮らしのなかで医療や福祉といった生活に密着した部分、GHQが深く関係した部分もあると思います。そういうところも上手く情報が提供できたらなと思いました。

【会長】GHQは医療関係にも通達などを出したのでしょうか。

【委員】戦後日本の経済はめちゃくちゃでした。そのなかでGHQはかつて産業組合と言われていた農協組織を協同組合という形にすると同時にそれを全国に普及させるためにプロパガンダと言うか宣伝用の映画を作っています。実は私はこのフィルムを手に入れました。香川県の古文書資料館のなかに埋もれていたものをNHKが見つけてダビングさせてもらったんです。恐らくみよしのなかでもこの映画を見られた方はいらっしゃると思います。

【会長】私は神社のほうにも地元で関係してましたので神社関係の文献を見ていたら、戦後

にGHQが神社庁に「こういう言葉を使ってはいけない」とか何項目か具体例をあげて通達を出してるんです。それでは事務局お願いします。

【事務局】(部長以下、一言あいさつ)

【会長】ご苦勞様でした。それでは遅くなりましたが、両先生にまとめや感想も含めて私どもみよしに居住の者にご指導いただけたらと思います。最初に黒田先生お願いします。

【委員】私はお役に立っていないんですけど、前の原田会長が非常に難儀をされたと思います。林先生には私の悪い癖もご存じの上で仕事をさせていただきましたので、一番最後の仕事になると思って頑張るつもりでしたけど、健康上の関係で一番詰めの時に頑張れなかったのが残念です。また、自分の計画としては、大学を辞める4、5年前からここに入って終わろうと思っていたんですけど、たまたま役職を4年務めましてこれも学長交代期で大学も忙しかったもんですからあまりお役に立てなかったのは残念です。印象に残っております事は、いくつかありますけどひとつは先ほど石川先生からお話がありました文化財(別編)の出版は私は神業だったと思います。短期間にあれだけまとまった形で要点をきちんとおさえてあります。私ども特に地元に縁の薄い者は神社・仏閣の由来とか所在地などは基本的にはあれをベースにしながら以前に出版された地域史とかを切り貼りして冊子にして、それを参考にして出来ているのが本文編の神社・仏閣のところだろうと思っております。2点目は、どちらかという事務局が遠慮がちに作業されているところがあったので少し部会間で凹凸があったのではないかなと思っております。やり方ですからいろいろ捉え方あるかも知れませんが、いろいろ勉強させてもらいました。物をつくるプロセスが一番大事ですけれども、時間が経てば結果で評価される事になります。章節構成などいろいろ問題はあったかも知れませんが、それなりの方がされてますので文章の凹凸もあるかも知れませんが、1冊の本になるとやはり良かったなと深く感じ入っているところです。実際は林先生が裏表しかも長い期間ご高齢にも関わらずやられたのには深く感謝しております。もうひとつは、この本は安く出来ているのではないかと関心しているんですけど、何回も校正していますから金銭的にも時間的にも印刷屋は大変じゃなかったかなと思います。残務はいろいろ残ると思いますけど、4、5年のうちに大きな行事がある時にでも販売されれば、かなり捌けていくのではないかなと思います。

【会長】ありがとうございます。それでは平成11年の最初の時から編さん委員会にも出ていただいておりました林先生にお願いしたいと思います。

【委員】大変お世話になりました。この日を迎える事が出来、大変ホッとしております。本文編が発刊された時に久野さんのほうに長々と今後の問題について手紙を書きました。第1点は三好町誌の発送を正確にやる事です。例えば別編だけ送って資料編がなくて、また本文編が来ると資料編もどうしても欲しいという事になるので、やはり発送は正確かつ迅速に行うよう言いました。先ほど確認したらすでに完了しているという事でしたので、その点では非常にスムーズに行われたと思って喜んでおります。第2点はこれが一番大事ですが、資料室にある資料をどこに移管するかです。図書館か民俗資料館のどちらかだと思いますが、一長一短でして市当局、教育委員会のなかで論議していただきたいと思います。10数年もやっておりますと各自治体からたくさん本を寄贈されていると思いますし、資料をコピーしたものがあろうと思います。こういうものをどこに移すか。資料館にするか、図書館にするかでもものすごく差が出てくるんです。町誌の資料を一般市民が閲覧するのにいいのは資料館より

図書館のほうがいいです。ところが、問題がありまして町誌に対する批判や質問がこれから出てきます。ひと月や一年で片づくものではなくて、10何年ぐらい続くわけです。その場合に図書館で対応出来るのかという問題です。そういう意味では資料館のほうが学芸員がいるのでいざとなったら対応できるという長所があります。ただし、一般市民は図書館のほうが見やすいです。今後こういう問題が起きまして、資料館ないし図書館で対応できない場合は、それぞれ担当の部会長と執筆者にご連絡をいただきたい。そこでも処理できなければ、編集委員会の問題になってきます。今すぐに出てくる問題ではないです。資料の移動についてはよくお考えいただきたいと思います。第3点は普及の問題です。私は今日市役所の前に来てびっくりしました。入口にポスターがたくさん貼ってあるんですが、そこに町誌に関してのポスターが一枚も貼ってない。名古屋市史でも愛知県史でもそうですが、行くとポスターやチラシなどが貼ってあって「販売中です。〇〇課へ」とか書いてあります。そういうものを出していただきたい。普及の問題についてその他に生涯学習センターなどで「町誌を読む集い」みたいなものをお開きになりまして、町誌をテキストにして読む会をやっていただきたい。最近の小中学生に郷土を愛してもらい立派な市民になってもらおうという事で町誌を使う場合が多いです。小学生向け、中学生向けの町誌（市史）として100頁ぐらいの副読本みたいなものを作って、子供のうちからみよし市民としての自覚というものを持っていただきたい。普及の問題はこれから長い問題として登場してきます。特にお願いしたい事は3つです。質問に対する対応体制を考えておいていただきたい。何とかして「売る」という事を考えていただきたい。「売る」と言う事の手助けとして、読む集いというものをやっていただければ幸いです。もうひとつは、いかに子供たちにこの町誌を分かりやすく説明するかという問題です。これは地元の社会科の先生にお願いする事になると思います。私どもは質問の時に動員していただければ結構でございます。以上、どうも長い間お世話になりありがとうございました。

【会長】ありがとうございました。黒田先生、林先生には本当にいいお話を聞きまして、事務局も肝に銘じていただきたいと思います。問題はこれからだという事です。せつかくの本ですので生涯学習の場、学校教育の場でも機会をとらえて取り上げていただきたい。ご提言いただいたような町誌に関する質問に対してのシステムは簡単なようで非常に難しいと思います。組織的にも少しでも対応できるようにお願いしたいと思います。私からですが、平成11年の時には編さん委員5人でスタートしたんですが、既刊の町誌が出来たばかりなのになぜ新しい町誌なのかという事と、私がこういう場に出させてもらっても何も知識がないのになぜ新しい町誌なのかという思いがありました。新しい町誌は非常に重要だという雰囲気があったんですが、数年たったら費用も時間もかかるから町誌なんて無駄だという意見が議会を中心に湧き上がってきまして、三好町として経費削減として町誌編さんがあがったんです。しかし、やはり町誌は必要だという事で久野町長に直訴していただいてようやく組織が出来上がったわけです。スタートしてからもまたご意見がありまして、まずは編集委員会をどういう組織にするかと言う事でご意見が分かれて、会議室で投票で編集委員会長を決めたこともありました。石川恒夫前会長も身体的にもずいぶんご苦労なさったと思います。石川会長がいらっしやったらもう少し良い町誌が出来たかも知れませんが、私の力足らずで申し訳ないと思っています。委員を互選する時も石川先生の当時強い指導だったという思い出があるんですけど、そういう事で今日町誌が出来上がった思いですけど、これも皆さんのおかげだと思います。

っています。私がこういう立場をいただいた時も皆さんにご迷惑をかけるばかりでしたが、林先生は私よりも歳が 10 近く上であられるのにも関わらず元気はつらつでみよしの町誌を引っ張っていただきました。あらためて皆さんに特に事務局にもお礼を申し上げたいと思います。途中で人事異動があつて事務局がつぶれてしまうのではという心配があつたんですが、幸いにも適任者の方にやっていただいてこの完成式ができた事をお礼申し上げます。どうも皆さん本当にありがとうございました。これで終わらせていただきたいと思ひます。最後に部長から何かございますか。

【事務局】大変ありがとうございました。お体に気をつけられましてご壮健でありますようお祈り申し上げます。

【会長】ありがとうございました。

午後 3 時 35 分 終了